

G35-WiMAXプロトコルシミュレーター NSA-WiMAXプロトコルモニター

2.5GHz帯の免許申請に伴い、WiMAXをめぐる動きが活発化してきた。日本テクトロニクスではWiMAX機器ベンダー向けにプロトコルシミュレーターとプロトコルモニターを提供している。

日本テクトロニクスが提供するWiMAXプロトコルテストソリューションは、ASN(Access Services Network)とCSN(Core Services Network)がターゲットだ。製品は、プロトコルシミュレーター「G35-WiMAX」とプロトコルモニター「NSA-WiMAX」の2製品をラインナップしている。対応インターフェースは、R1、R6、R3、R4だ。

G35-WiMAXはポータブル型とラックマウント型の2モデルがあり、それぞれ最大5、13スロットとなっている。ボードを増やすと負荷能力を高めることができるため、後者はより高負荷試験を求めるユーザー向け、前者は持ち運びを優先したいユーザー向けだ。

特徴は、プロトコル機能試験や負荷試験だけでなく、プロトコルモニター試験も1台で提供できる点。例えば、3G機器開発においては、シミュレーター機器とモニター機器は完全に分かれており、どちらか一方でのみ、強みを発揮しているベンダーが多い。しかし、

WiMAXはまだビジネス展開が読めない。日本テクトロニクスでは今の段階で両機器を別々に複数揃えるWiMAX機器ベンダーは少ないとみている。

操作性に力を入れているのも特徴だ。同社では“ready-to-use”(出来合いの)テストシナリオをG35と一緒に提供している。これによりユーザーは、あらかじめ出来上がっているシナリオを組み合わせて自分で実施したいテストが簡単に可能になる。

ready-to-useテストシナリオは、簡単にテストケースを記述・定義できるテクトロニクスのメッセージシーケンスチャート(MSC)がベースのため、ユーザーが実施したい独自のテストシナリオに作り変えることも容易だ。

負荷試験については、C-planeだけでなく、U-planeにも同時に高負荷を提供する。同社によれば、他社との比較で最高クラスの負荷が提供できるという。ボード単体にプロセッサを搭載しているため、ボードを追加すればす

るほど負荷をかけられるためだ。

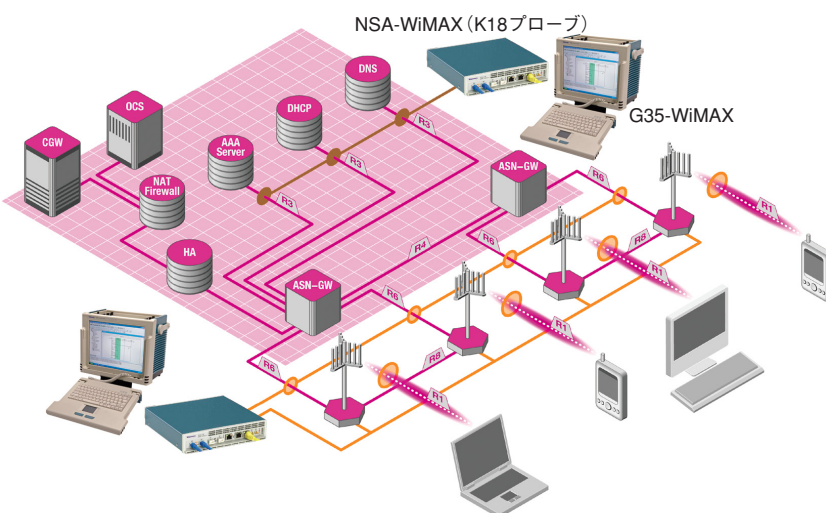
プロトコルモニターであるNSA-WiMAXは解析ソフトウェアだ。ハードウェアの「K18プロブ」とNSAをインストールしたPCを接続し使用する。

数百Mbpsという非常に高速な負荷環境においても、取りこぼしなく、半日や1日という長時間、キャプチャしたデータをハードディスクに取り込める点が最大の特徴だ。WiMAXの間欠障害も逃すことなくキャプチャできる。

前述のように、G35にもプロトコルモニター機能は装備されている。同社は両製品の違いについて「NSAはより商用段階に近い用途に向いている。フィールドトライアルから商用のトラブルシューティングに向けたモニターや、装置ベンダーのQAテスト環境での接続試験・負荷試験のモニターを対象にしている」という。そこでいかに簡単にモニターできるかが製品のポイントになっている。

その代表的なものがWiMAXトポロジー検出機能だ。単にデコードするだけでなく、WiMAXのシグナリングをモニターし、自動的にトポロジーを検出する。このためユーザーは、自分のネットワークがどうなっているのかを視覚的に把握することができる。また、特定呼を抽出するコールトレース機能も搭載しており、障害が発生した呼のデータを迅速に解析することも可能だ。

G35-WiMAXおよびNSA-WiMAXのテストイメージ



お問い合わせ先

日本テクトロニクス株式会社

ネットワーク計測営業部

TEL : 03-6714-3096

E-mail : japan-sales-net@tektronix.com

URL : <http://www.tektronix.co.jp/>